



公立置賜総合病院

平成28年1月
第 44 号

医療連携だより

公立置賜総合病院医療連携・相談室 ☎0238-46-5000 内線 1902, 1409

特集:

年頭のあいさつ

……1

市民公開講座

……2~3

ドールオープン

病院職員制服紹介

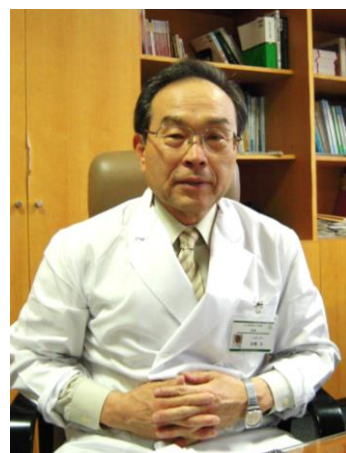
……4

「開院15歳になりました」

明けましておめでとうございます。昨年11月で、公立置賜総合病院の開院から15周年となり、11月27日に記念行事を行いました。各方面から多くのご参加を頂き、盛大にお祝いして頂きました。ありがとうございました。15歳というと昔の元服の年頃であり、漸く大人の仲間入りではないかと思えます。

軌を一にして、病院会計方式もこれまでの収支差方式から、自治体病院では一人前の総務省「繰り出し基準」による方式となりました。これまでは、病院経営が赤字の時は構成団体(2市2町・県)から補てんしてもらい、黒字の時は構成団体に返すというものでした。今後は、自治体病院が負っている不採算部門(救急医療、小児周産期医療、へき地医療、災害医療、感染症対策等)に対する総務省が決める一般会計からの繰入金以外は、病院組織内で収支バランスを取り、頑張り分は内部留保金として、働きやすい職場づくりに使っていくといったような運営になります。しかしながら、少子高齢化人口減少社会となり、社会保障制度見直しや医療費抑制政策の直撃を受け、全国的に病院経営は年々厳しさを増しております。

公立置賜総合病院 院長 渋間久



せっかく独り立ちできた時にいきなり大波に乗り出すような状態と言ってもいいでしょう。乗り切っていくために、15年間支えてきて下さった関係の方々にはこれまで以上のご支援をお願いしなければなりません。特に医療・福祉関係の方々には益々連携を密にして患者中心の医療の推進にご協力をお願いいたします。昨年はルーチン業務に加えて、医療情報システムの更新や、救急センターの体制整備、病院機能評価受審と年間通じて職員に頑張ってもらいました。多忙な一年でしたが、そんな中で職員の一体感も生まれるものと思っています。

今年も厳しい診療報酬改定が待っています。何とか健全経営を維持して皆さんと明るく楽しく地域連携を進めて参りたいと思っております。宜しくお願い致します。

2 市民公開講座

市民公開講座 置賜の明日の医療を考える

～これからの地域包括ケアをどうするか～



【講演】

「これからの地域医療

～医療政策への対応～」

自治医科大学附属病院

地域医療学センター総合診療部教授

松村 正巳 氏

松村先生をお招きして、12/13（日）に川西町の農村環境改善センターにて市民公開講座を開催しました。住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けられる地域社会をつくるため、何が必要か皆さんで検討しました。

【現在の日本の医療問題】

2025年問題・・・高齢者人口がピークになる

全国に123万床（2014時点）ある病床数が、医療機能分化を推進しないと2025年には152万床必要になる推計。しかし、国は10年後に1割の病床削減が可能と判断している。そのため地域包括ケアシステムなど**在宅で支える方針**が出されている。

日本は公的病院が少なく、民間病院が8割強。今までは国が方針を打ち出していたが、これからは地域の実情に合わせた**医療構想策定**が求められる。

【地域医療構想】

二次医療圏単位で医療需要を推計し、供給体制を検討する。（平成28年度半ばまで）

持続可能な社会保障制度確立が目的
→効率的かつ質の高い医療提供体制の構築とともに、地域包括ケアシステムを構築する

- ・新たな基金の創設
- 消費税が財源。各都道府県に設置
- ・病床機能報告制度
- 都道府県内の構想地区単位で医療需要把握**
- ・**目指すべき医療提供体制を整理**
- 施設整備・医療従事者の確保、養成など

【地域包括ケアで考慮すべき要素】

- ① 専門医制度で総合診療専門医新設される→総合診療医に**「地域を診る視点」**が求められるため
 - ・日常遭遇する疾患や障害に対して適切な初期対応ができる
 - ・継続医療も全人的に対応できる
 - ・地域の保健活動に関わることができる
 - ・深さではなく広さと多様性

- ② 特定行為が可能な看護師の育成
→これまで医師が行っていた仕事の一部を看護師が行えるようにする

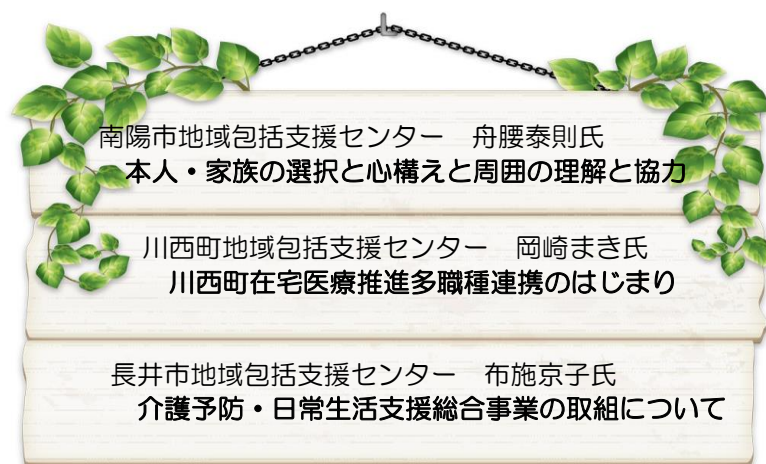
【地域医療構想策定のプロセス】

- ① 必要なデータの収集・分析・共有
- ② 構想地区の設定
- ③ 構想地区ごとに医療需要の推計
- ④ 医療需要に対する医療供給の検討
- ⑤ 必要病床数の推計
- ⑥ 2025年のあるべき医療供給体制を実施するための施策を検討

地域医療構想策定の目的は病床削減ではなく地域の安心の保障である。医療提供者はどう応えていくか考えていかなければならない。

3 市民公開講座(パネルディスカッション)

第2部では、各市町の現状と今後の展望を発表していただき、山田副院長先生、松村先生を交え、これからの地域づくりで何が必要かディスカッションしました。



地域包括ケアの根底には「本人・家族の心がまえ」が位置付けられている。国が考える在宅対応可能と実際に地域での考える在宅可能とは異なる場合もある。一人暮らしが増えている今、「自助・互助・公助・共助」が求められている。(南陽市)

平成26年から川西町の在宅医療を考える研修会をスタートし、在宅・介護の多職種連携＝顔の見える関係作りを強化している。自分が過ごしたい場所で最後を迎えられる地域づくりがこれから求められる。(川西町)

生活するための介護・居場所を作るために介護を受ける方が増えている。長井市では介護予防事業に重点をおき、今後は介護予防・生活支援の場に元気高齢者の力を取り入れ、生きがい働きの場をもってもらいたい。(長井市)



意見交換から・・・

病院では予防の観点から関わるものが少なく、地域でどんな予防の取り組みがなされているのかを具体的に把握できていない現状もある。

医療機能分化は求められているが、病院が何を行い、地域が何を行っているのか、情報の共有はこれからますます大切になってくる。

顔の見える連携が重要となる。



参加者からの意見(アンケート抜粋)

85名参加 : わかりやすかった 82%

- 高齢者の学校のようなものがあればいいと感じた。
- 事例がわかりやすかった。他のところにも発信してほしい。
- すばらしいところに住んでいると感じた。安心して老いていけそう。
- 予防も含め健康寿命の延伸に福祉関係も参画した対策を希望。



コーヒーショップの DOUTOR オープン



12月21日(月)、病院正面玄関のエスカレーター下にコーヒーショップが開店いたしました。

各種ドリンクの他、パン、ケーキなどがあります。病院をご利用される地域の方々から医療関係者まで幅広く利用できます。

病院近辺は商店等も少なく、アメニティーの向上に一翼を担うことが期待されます。



病院職員の制服いろいろ



医師は様々



看護師

看護補助者



医事クラーク



ソーシャル
ワーカー



予約センター



受付事務



あとがき

暖冬とは言っても雪国ですので、豪雪や吹雪もあるという地域です。ITを活用し遠隔地を結ぶテレビ会議ができるようシステムを構築しております。退院調整会議などテレビ会議で手軽に連携できる日を楽しみに。

今年もどうぞよろしく
お願いいたします。

他に薬剤師、検査技師、リハビリテーション部、栄養科など白衣を着用しております。皆さんには混乱を招くこともあるかもしれませんが、「心かよう信頼と安心の病院」の理念のもと、職員一同で医療を展開してまいります。

公立置賜総合病院

〒992-0601
山形県東置賜郡川西町
大字西大塚 2000 番地

TEL:
0238-46-5000

予約センターTEL:
0238-46-5700

FAX:
0238-46-5722

E-MAIL:
renkei@okitama-hp.or.jp

病院理念
心かよう信頼と安心の病院

置賜広域病院組合
公立置賜総合病院
www.okitama-hp.or.jp